

2年「時刻と時間」 教科書P15～P21 (4時間扱い→3時間で実施)		
教科書	教師の手立て	期待する児童の反応
教科書P15	<p>・板書に教科書P15の拡大コピーを貼る</p> <p>問1 それぞれ、何時を表しているかな。時計を読んで、□に時刻の数字を入れましょう。</p> <p>問2 □時は、長い針と短い針のどの針をみればわかりますか、○分は、<u>長い針と短い針のどちらをみればわかりますか。</u> <u>どちらかに手をあげましょう。</u></p> <p>問3 学校を出る時刻が9時で公園につく時刻が9時20分です。学校を出てから、公園につくまでの時間は、<u>どれだけでしょう。</u>時計を動かして考えて<u>みましょう。</u>(各自の時計で確認)</p> <p>※二つの時計をならべて、針の動きを量(楕円の面積)として、捉えさせていく。</p> <p>問4 <u>どれだけの時間がかかっていますか。</u></p> <p>問5 20分間でよいですか</p> <p>問6 ある友だちが、「4分間」だと言っています。この考えは正しいですか。おかしいですか。どちらかに手をあげましょう。それはなぜですか。</p>	<p>(教科書に書き込む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を出る 9時 ・公園につく 9時20分 ・ハイキング 10時 ・ゴール 12時 ・弁当 12時20分 ・公園を出る 2時 <p>(挙手)</p> <p>※○時を表す→短針【短い針】</p> <p>※○分を表す→長針【長い針】</p> <p>を、確認する(既習事項)</p> <p>(数学的活動・思考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20分間、4分間…。 ・4時間…。 <p>との連携)</p> <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20分間だと思います。 <p>(挙手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいです。 <p>(挙手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかしいです。(多数) <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い針が動いたのは、4めもりではなくて、20めもりだからです。
<p>ポイント1→</p> <p>(既習事項の「何時」「何時何分」の読み取りは、時計の「長針」「短針」のどちらをどのように使っているのかについて振り返らせて確認する)</p> <p>ポイント2→</p> <p>(「4分間」と言っていることについて取り上げ、その正誤を判断し、この根拠について表現させる)</p>		

<p>ポイント3→ (「長いめもり」が小さいめもりを読み、それは「分」をあらわすことを確認させる)</p> <p>ポイント4→ (「長いめもり」が小さいめもり(1分)の20こ分を動いていることを確認し、それが「20分」動いていることをとらえさせる)</p> <p>ポイント5→ (「時刻」と「時間」の違いについて明確にさせる。とくに「時間」は、「時刻」の「時刻」の間にある時間の量であることを視覚的にとらえさせる)</p>	<p>問7 長いめもりは、小さいめもりを読むんだね。<u>この小さいめもりがあらわすのは、「分」ですか「時」ですか。どちらかに手をあげましょう。</u></p> <p>・<u>長いめもりは、小さいめもりの「分」を読みます。でよいですか。</u></p> <p>問8 長い針が動いたのは、小さいめもりのいくつ分になりますか。</p> <p>問9 9時から9時20分までは、何分間あると言えばよいですか。</p> <p>【重要】 <u>※9時、9時20分→時刻</u> <u>※9時から9時20分まで時刻と時刻の間の大きさ→時間</u> <u>といます。</u> <u>※教師が時間(おうぎ形)を、塗りつぶして、量の大きさ(移動量)として見せる。</u></p>	<p>・長いめもりは、小さいめもりの「分」を読むからです。</p> <p>(挙手)</p> <p>・「分」です。(多数)</p> <p>(頷き判断)</p> <p>・よいです。</p> <p>(発言)</p> <p>・長いめもりが動いたのは、「小さいめもり」の「分」の20こ分だけ動いたので、1分の20めもり分で、20分動いています。</p> <p>(発言)</p> <p>・9時から9時20分までの時間は、20分間だと思います。</p> <p>【重要】</p> <p>・時刻は、□時、□時○分</p> <p>・時間は、時刻と時刻の間の大きさ→時間という。(ノートに記述)</p> <p>(意識)</p> <p>・時間は、「時刻と時刻の間にある時間の量」として捉える。</p>
--	--	---

<p>ポイント 6→ (「9時」と「10時」の間の時間を、「短い針」の動き(変化)からとらえる見方を理解させる)</p>	<p>問 10 学校を出てから、ハイキングを始めるまでの時間は、どれだけでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を出る時刻 9時 ・ハイキングを始める時刻 10時を時計で示して確認する。 ・短い針が9から10に動いたので、<u>何時間</u>と言えますか。 ・短い針が1動いたので、1時間でよいですか 	<p>(教科書で確認する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイキング開始 10時 ・短い針は9から10へ移動 <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間です。 <p>(頷き判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいです。 <p>【重要・確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>短い針は、時間</u>を表している。 ・9時から10時だから1時間だ。
<p>ポイント 7→ (「9時」から「10時」の間に「分」をあらわす「長い針」が一周(60目盛→60分)動いていることを確認させる)</p>	<p>【重要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>「分」をあらわす長い針は、どれだけ動いたのかな。</u> ・60分間でいいですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>長い針が一周したから、「小さいめもり」の60こ分動いたので、60分間だ。</u> <p>(頷き判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良いです。
<p>ポイント 8→ (「9時」から「10時」の間は、1時間(短い針の動き)で、60分間(長い針の動きと同じ時間の量であることを具体的な操作を通して理解させる)</p>	<p>問 11 「時」を表す短い針が「9」から「10」に動くので、1時間、「分」を表す長い針が「60」めもり動くので「60分間」でいいですか。</p> <p>※板書</p>	<p>(頷き判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいです
<p>ポイント 10→ (「9時」から「10時」の間は、1時間(短い針の動き)で、60分間(長い針の動きと同じ時間の量であることを具体的な操作を通して理解させる)</p>	<p>問 12 1時間=□分間で、□に数字を入れましょう。</p> <p>※1時間=60分間でいいですか。</p> <p>※教科書でも確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・□の数は、60です。 ・よいです。(頷き判断)

<p>ポイント 11 → (2時間 → 60分 × 2周で120分であることを具体的操作を通して確認する)</p>	<p>問 13 ハイキングを始めた10時からゴールについた12時までの時間は、何時間ですか。また、何分間ですか。</p> <p>・時間で表すと2時間、分で表すと120分間でよいですか。</p> <p>問 14 「たしかめよう」の2問をやってみよう。 ・12時20分から30分間立った時刻は、?</p>	<p>(発言) ・短い針 → 10から12に「2」めもり動くので、2時間 (発言) ・長い針 → 2周動くので、1週が60分間だから、120分間となる。</p> <p>・よいです。(頷き判断)</p> <p>(発言) ・12時20分から30分間 → 長い針が30分動くので、12時50分になる。</p>
<p>ポイント 12 → (「分」の動きを「長い針」の動きから捉えさせていく)</p>	<p>※長い針の動きを考えてみよう。(補助発問) ・よいですか</p> <p>・2もやってみよう ① 1時間10分 = □分 ② 90分 = □時間□分</p> <p>・よいですか</p>	<p>(5、10、15…と数える方法も紹介し、30分になることを確認させる。) ・よいです。(頷き判断)</p> <p>(発言) ① 1時間10分 = 60分と10分だから、70分 ② 90分 = 60分と30分だから、1時間30分 ・よいです。</p>

<p>第2時 教科書P18～19</p> <p>ポイント1→ (「めい」さんの一日について、P18・P19の資料をもとに、時刻や時間を読み取らせていく)</p> <p>ポイント2→ (それぞれの時刻が同じ「7時」であることに着目させる)</p> <p>ポイント3→ (「7時」と表す2つの時刻が、一日の中では「違う時刻」である矛盾に着目させていく)</p> <p>ポイント4→ (生活で聞いたことのある「午前」「午後」と関連づけさせる)</p>	<p>※教科書のP18とP19の図の拡大コピーを黒板に貼る。</p> <p>問1 めいさんの一日について、調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起きた時刻と寝た時刻 ・朝ごはんを食べ始めた時刻と食べ終わった時刻 ・朝ごはんにかかった時間 ・外で遊んだ時間 ・夕ごはんを食べ始めた時刻 ・夕ご飯を食べ終わった時刻 ・夕ご飯にかかった時間 <p>問2 朝ごはんを食べ始めた時刻と夕ご飯を食べ終わった時刻は、それぞれ何時だったかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ考えの人は手をあげましょう。 <p>問3 どちらも7時なんだね。同じ時刻に、朝ごはんを食べ始めて、夕ご飯を食べ終わったということかな</p> <p>問4 朝の7時と、夜の7時なんだね。同じように、一日には、朝と夜に同じ時刻が2回あるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ時刻が2回あるんだね。 <p>問5 何かわかりやすい言い方があるのかな。知っている人はいますか。</p> <p>※教科書を見せて、確認する。</p>	<p>(ノートに書く)</p> <p>→ (午前) 6時</p> <p>→ (午前) 7時</p> <p>→ (午前) 7時30分</p> <p>→ 30分間</p> <p>→ 2時間</p> <p>→ (午後) 6時</p> <p>→ (午後) 7時</p> <p>→ 1時間</p> <p>(発言)</p> <p>→ 7時と7時</p> <p>(挙手確認)</p> <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかしい ・違う時刻 ・あさ7時と夜の7時 <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝と夜に同じ時刻がある ・2回ある <p>(頷き確認)</p> <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝と夜 ・午前と午後
--	--	--

<p>ポイント5→ (図から、一日が「午前」と「午後」に分けられていることをとらえさせる)</p>	<p>・午前と午後に分かれていることがわかりますか。</p>	<p>・わかります (頷き判断)</p>
<p>ポイント6→ (2つの時刻を「午前7時」と「午後7時」として表すことを確認する)</p>	<p>問6 朝ごはんを食べ始めたのが、「午前7時」、夕ごはんを食べ終わったのが「午後7時」でよいですか。</p>	<p>・よいです (頷き判断)</p>
<p>ポイント7→ (「午前」と「午後」を使って、聞かれている時刻を表現させる)</p>	<p>問7 めいさんが、起きた時刻と寝た時刻を、「午前」と「午後」をつけて、表わしましょう。 →ノートで確認・評価</p> <p>問8 「午前」は、何時から何時までですか。「午後」は「何時から何時までですか。</p>	<p>(ノートに記述)</p> <p>・起きた→午前6時 ・寝た→午後9時</p> <p>(発言)</p> <p>・「午前」→午前0時から午前12時まで ・「午後」→午後0時から午後12時まで</p>
<p>ポイント8→ (「午前」と「午後」の始まりと終わりをとらえさせるとともに、午前12と午後0の重なり、午後12時と午前0の重なりを理解させる)</p>	<p>問9 午前0時から午前12時までを「午前」といいます。午後0時から、12時までを「午後」といいます。 ・「午前12」と同じ時刻は、「午後」何時と言えますか。</p>	<p>【重要】</p> <p>・午前12時と午後0時は同じ時刻 ・午後12時と午前0時は同じ時刻 (教科書を使って確認させる)</p> <p>(発言)</p> <p>・午後0時です。</p>
<p>ポイント8→ (「午前」と「午後」の始まりと終わりをとらえさせるとともに、午前12と午後0の重なり、午後12時と午前0の重なりを理解させる)</p>	<p>問10 朝起きてから、正午までの時間は、何時間ですか。 ・起きた時刻が? ・正午の時刻は? ・計算で求めると? ・何時間になりますか</p>	<p>(発言)</p> <p>・午前 6時 ・午前12時 (式) $12 - 6 = 6$ だから ・6時間です。</p>

<p>ポイント9→ (「午前」と「午後」の時間を、それぞれの始まりの時刻と終わりの時刻をもとに、捉えさせて、根拠を表現させる)</p>	<p>問11 「午前」「午後」は、それぞれ何時間でしょう。</p> <p>問12 一日は、何時間でしょうか。</p> <p>・なぜそう考えましたか。</p>	<p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも12時間です ・$12 - 0 = 12$だからです。 <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間です。 ・$12 + 12 = 24$時間だからです。
<p>第3時 教科書P20～21</p> <p>ポイント1→ (「何時に何をするか」ということについて、時計と時刻の表を関連づけながらとらえさせる)</p> <p>ポイント2→ (「何時に何をするか」について、他児の表現をとらえ、そのことの正誤について判断させていく)</p>	<p>問1 教科書P20には、何時にどんなことをするか書いています。「午前」か「午後」を考えて、時刻や時間について、わかることを書いてみましょう。</p> <p>※必要に応じて、右記の質問を提示して、それぞれの時刻や時間をよみとらせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間観察で評価する ・こんな考えがありました。 <p>(右の8つを黒板に書いて紹介する。その際、数字を□にして、子どもに答えさせてもよい)</p> <p>・これでよいですか</p>	<p>(ノートに記述)</p> <p>(例)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①午後5時に「家に帰る」 ②夕ご飯を午後6時から食べ始める ③夕ご飯を午後6時40分に食べ終わる ④夕ご飯を食べる時間は、40分間 ⑤午後8時に明日の準備を始める ⑥午後8時10分に明日の準備をおわる ⑦明日の準備にかかる時間は、10分間 ⑧午後9時にねる <p>(頷き判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいです

<p>ポイント2→ (「何時に何をするか」について書き入れ、適切に位置付けているのか相互評価をさせていく)</p> <p>ポイント3→ (「時刻」か「時間」かだけの一方を答える問題を提示し、「時間」と「時刻」の違いを明確にさせていく)</p>	<p>問2 ①のように、午後5時から、午後9時までの間に、「あ」から、「え」の4つのことをします。何時何分に、何をするのか、上の図に書きいれましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時間の帯に、適切に位置付けているのか確認する。 ・うまく位置付けているのか、児童の考えの例を紹介し、判断させる。 <p>問3 「あ」「い」「う」「え」→ 何時何分から、何時何分まで、…。(それぞれ確認させる) 書き入れた何人かを紹介する。</p> <p>P21に進む</p> <p>問4 P21の1と2に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えを紹介し、子どもに自分の考えについて自己評価させる。(○つけ等) <p>問5 教科書朱書き編P51「つまずきやすい問題とその指導」に取り組ませる。</p>	<p>(略)</p> <p>(頷き・挙手で判断) ・入れ方の是非を判断する</p> <p>(頷き・挙手で判断) ・よいです。</p> <p>(取り組む)</p>
---	---	--

<p>ポイント4→ (「4時10分」と答えている考えの正誤とその理由について表現させ、時刻と時間の違いを確実に理解させていく)</p>	<p>問6 ○○さんが「家を出てから、えきにつくまでの時間は、4時10分」だよと言っています。この考えは、よいですか。それはなぜですか。</p> <p>問7 ○○さんが言っている「4時10分」は、何を答えているのかな。</p> <p>問8 時刻や時間の問題をノートに作り、答えも書きましょう。</p> <p>・教師が点検・評価する。</p>	<p>(発言) ・おかしいです (発言) ・家を出でから、えきにつくまでの「時間」だから、<u>かかった時間を聞いているので、30分間だから、</u> ・<u>4時10分は、えきについた時刻を答えているから</u></p> <p>・(自由に作る) ・教師に提出する ・教師の評価をもとに自己評価する。</p>
--	--	--